

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072401017		
法人名	株式会社ふれあいの里		
事業所名	ケアセンターふれあいの里		
所在地	長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪14432 - 1		
自己評価作成日	平成21年10月7日	評価結果市町村受理日	平成22年2月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2092400023&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成21年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホームで行う日常の楽しみ、余暇活動の他に、隣接のデイサービスやショートステイ・有料老人ホームに遊びに行ったり、合同で行なう体操やクラブ活動に参加していただけます。幅広い選択肢の中から利用者様の希望に応じてご参加いただけます。 グループホームのウッドデッキから出られる畑スペースは、余暇活動の場でもあり収穫の喜びを感じる場でもあります。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業者は“ふれあいの和で社会貢献”の方針に則し、開所(H19年)以来地域との関係作りを大切に取り組んで来られた。主治医や協力医・訪問看護等の協力を頂いて、重度化や終末期への取り組みがなされている。また昨年より“ふれあい広場”と称するホールが完成し、地域の子どもからお年寄りまで、様々な活動を通じた交流の場となっている。さらに、町と連携し予防事業を行いながら、認知症サポーター養成講座等の活動を行い、認知症ケアの一般化を地域に発信する拠点としての取り組みがなされている。その他、周辺環境を活かした菜園作りは利用者の楽しみや保有力への支援となっている。ホームの目指す方針や役割の実践を、管理者・職員が一体となり努力されている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に加え、事業所としての理念を掲げて運営している。共有の為に毎月の法人全体の会議では全体理念を復唱している。又、スタッフルームの見やすい位置に理念を掲示しており理念に基づいた実践を行っている。	地域に根ざした社会貢献を、法人の理念を基にし、昨年、管理者・職員・家族等で事業所独自の理念を作りあげ共有している。事業所及び利用者と地域の関係性を重視した支援に取り組まれている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事の際には地域の方にも声をかけ、気軽にご参加いただいている。地域行事や地域のお店、美容院にも積極的に出て行き地域と共に暮らしていけるよう取り組んでいる。施設周辺の散歩や買い物時には気持ちのよい挨拶を心がけている。	日常的に地域のお店へ買い物に出かけたり施設周辺の散歩時の出会いや触れ合いを大切にしている。小学校の運動会や町文化祭への共同作品の出展など地域の楽しみの共有を図っている。昨年建築中であったホール“ふれあい広場”が完成し、子どもから高齢者まで、様々な地域の方々と相互交流の場として活動を始められている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方対象の認知症サポーター養成講座や公開講座を行い相互交流をしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて話し合った内容は、スタッフ会議の中で報告し、頂いた意見をサービス向上に反映している。	会議には地区・町関係者や家族等が出席され、ホームの様々な取り組みの状況報告や今後に向けた話し合いが行われ、頂いた意見の反映へ取り組んでいる。9月には利用者と一緒に食事作り・会食を行い、委員の方々の理解を深めて頂く機会を組まれた。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターと話し合いを持ちながら、認知症サポーター養成講座・公開講座など積極的に行なっている。	町担当者や地域包括支援センター等に現状を知っていただきながら、相談や提案等も行い、かわりを大切にしている。地域の予防事業や認知症の理解に向けた活動等、連携をしながら取り組まれている。	

外部評価結果(ケアセンターふれあいの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行っているケースは無い。身体拘束しない事についてスタッフ会議等で確認している。身体拘束をしないケアの工夫を常に考え、拘束の無い生活を送って頂いている。鍵はかけず、自由に行動できるよう支援している。	拘束をしないケアに取り組まれている。ホームから出て行く利用者には“なぜ出て行ったのだろう”と利用者の理解や適切な支援に向けた話し合いが行われている。また地域に向け、協力や連携をいただけるような働きかけにも取り組まれている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止教育システムの研修に参加し、職員への伝達研修を行っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している方の受け入れを行っており、制度について学ぶ機会を持っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に辺り、契約書・重要事項説明書を丁寧に説明し都度質問を受け付ける事を伝えている。 解約時は利用者・家族と話し合いの機会を設け、退去先についても一緒に考えている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・運営推進会議の中で意見、不満、苦情を聞き取っており、運営に反映させている。 事業所、市町村、国保連の苦情相談窓口を重要事項に明記している。	ホームや公的な窓口のご案内をし、自由に意見を表せる事を明記し伝えている。家族会・運営推進会議、またご家族とのかかわりの中で常に聞く姿勢を持つことを心がけ、出された意見を反映する努力がなされている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は施設経営会議に参加しており、スタッフ会議で出た意見を反映している。 管理者は定期的な個別面接を行い、職員の意見を聞きとっている。	管理者は常に職員の意見や提案に耳を傾ける姿勢を大切にされている。スタッフ会議で出された職員意見や年2回の個別面談等に於いての聞き取りを通して意見を把握し、上部の経営会議に繋げ運営に反映させている。	

外部評価結果(ケアセンターふれあいの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者は定期的な経営検討の話し合いを行い、実績、勤務状況、給与水準、労働時間、やりがいなど、の情報を共有し職場環境の整備に努めている。キャリアパスの導入を目指し研修に参加している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設学習会を中心に、全職員が参加出来るように施設内での研修を行なっている。 施設内での勉強会だけでなく、施設外の研修にも積極的に参加しており、研修参加職員が研修報告を兼ねた学習会を実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上伊那圏域のグループホーム相互評価事業に参加し、ネットワークづくりを行っている。地域のグループホームへ相互見学の機会を作っており、同業職員間の交流の機会を作っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み前に必ず本人に施設に来ていただき、困っていること、不安なこと、求めていることを聞き取っている。その上で施設環境を見て頂き、提供されるサービスについて説明し、不安の軽減に努めている。施設来所時の情報は職員間で共有している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み前に必ず施設に来ていただき、困っていること、不安なこと、求めていることを聞き取っている。その上で施設環境を見て頂き、提供されるサービスについて説明し、不安の軽減に努めている。施設来所時の情報は職員間で共有している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に当事業所でのサービスが適切でない判断した場合他事業所を勧めている。又、グループホーム以外のサービスが適切と判断した場合も他サービスの利用を勧めている。		

外部評価結果(ケアセンターふれあいの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に楽しむ事を念頭に、支援する・されるにこだわらずに生活し、尊敬の念を忘れない。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に気安い雰囲気作りの為に毎月の利用の様子を家族にお送りしている。面会時に家族と共に利用者と関わる時間を積極的に作り、現在の様子を補足説明している。ご家族の意見をケアプランに反映させている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時にそれまでの交友関係を確認し、家族以外の面会を受け入れている。	利用者の馴染みの友人・これまで活動してきた会のお仲間等との交友関係や社会習慣等を把握し、遊びに来ていただいたり、手紙や年賀状のやり取り等の継続的な支援が行われている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支えあう事が出来るよう席の配置を工夫している。皆で協力しながら作る作品作りを行っている。自然にご近所付き合いが出来るよう必要時は職員がコミュニケーションの間に入り支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も利用者の状況が聞けるような関係作りを行い、必要に応じて相談に乗っている。看取りケア終了後も運営推進会議・家族会に参加いただいたり、アンケート等協力頂き、関係を継続している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それまでの生活スタイルを尊重しながら、ケアプランを作成している。利用者の声を積極的に聞かせていただき、サービスに反映している。	日々の一人ひとりへの寄り添い支援の中から、意向の汲み取りや把握に努めている。利用者の言ったこと・気づいたことや把握したことを、申し送りノートや日誌等に記録し共有に努めている。	

外部評価結果(ケアセンターふれあいの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に得た情報をフェイスシートにてスタッフで情報共有している。 日常のコミュニケーションから生活歴や馴染みの暮らし方等聞き出している。 それまでの生活スタイルを尊重しながら、ケアプランを作成している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月行っているケース検討会にて把握し、必要に応じてケアプランに反映している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事業所内・家族・関係職員とのカンファレンスで出た意見をケアプランに反映している。	本人・ご家族等の意向を把握し介護計画書を作成している。定期的及び随時の評価やカンファレンス等を行い、職員や関係者の意見を聴き、現状に即した見直し等を行い日々の支援に反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護看護記録に情報を集約し、情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、受診や外出の支援を柔軟に行っている。必要時は家族が宿泊できるようにしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、移動図書館の訪問や、教育機関との交流、消防団との合同防災訓練等、地域と連携を図っている。		

外部評価結果(ケアセンターふれあいの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と電話連絡や、受診時に日常の様子を記載した情報提供書を持参し、連携を図っている。	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。場合により、家族が付き添い受診する際は日常の様子を記載した情報提供書を持参して頂き、利用者が適切な医療が得られるよう協力医等と連携を図っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションを業務委託契約をし、医療との連携を図っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日常の様子を病院へ情報提供している。 入院中も病院と情報交換を行い、退院時にスムーズな受け入れが出来るよう努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の看取り介護の方針に準じて行う。 施設での様子を情報提供し、利用者・家族・かかりつけ医と「できること・できないこと」を相談し、チームとして支援している。 ターミナルケア終了後にスタッフ会議を行い、終末期の取り組みについて意識を統一している。	事業所及び職員は、本人・家族の意向を見極めながら、かかりつけ医や協力医・町の訪問看護等の理解や協力を得て、方針を共有し、重度化やターミナル期に於ける支援に取り組まれている。看取り後のケースについてもスタッフ会議に於いて検討を重ねると共に、家族への継続的な支援等を行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度AEDを含めた救命救急講習への参加を義務付けている。 急変や自己発生時の対応についてのマニュアルに準じて行う。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施している。 地域の消防団と連携して消火訓練を実施し施設の構造、利用者の状態を把握して頂いている。	定期的に避難訓練を行うと共に、いろいろな災害や夜間等を想定して訓練を行っている。今年度は消防署の協力を得て訓練を行い、通報や避難経路・避難場所等の指導をして頂いている。	事業所は災害時の地域の避難場所に指定され備蓄も整えている。この事を活用し、消防団・周辺住民との協力体制について、利用者と地域住民双方の安全の確保を第一に、運営推進会議等の力を借りながら、確かな協力や支援が得られるよう、さらなる取り組みを期待します。

外部評価結果(ケアセンターふれあいの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を守ることの重要性を日々の関わりの中で確認している。	日々の関わりの中で、職員の何気ない言動について、職員間で確認や意見交換をしながら、気づきを得ている。利用者の誇りや保有力を尊重し、尊厳ある生活支援を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己選択できる事を心がけて声かけを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室・共用スペース・併設施設を行き来しながら、利用者のこだわりを重視した自由な時間の使い方をさせていただいている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重した洋服選びや、理・美容の希望を聞き取るよう努めている。訪問の理・美容の利用も可能だが、希望の店に行くことが出来るよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	役割を持っていただきながら、利用者と職員が一緒に行っている。 食事は利用者と職員が同じテーブルで同じものを食べ、話題提供をしている。	ホームの庭先での菜園づくりや食材の買い物を利用者と共に楽しみ、利用者の食べたいものを献立に取り入れ、利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けを行い、利用者の方や楽しみへの支援が行われている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に献立の指導・ボリュームの画像診断を受け、バランス良く一人ひとりの状態に合わせた適切な栄養価の食事を作っている。 自由にお茶や麦茶が飲めるよう環境を整えている。		

外部評価結果(ケアセンターふれあいの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、利用者の状態に合わせた支援を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状態、排泄パターンに合わせた支援を行っている。	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、さりげない排泄の支援が行われている。ホームでの食事により便秘症の方が薬に頼らず自然な排泄を快復されているとお聞きした。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士の指導にて食物を工夫している。便秘の予防として毎日テレビ体操をしたり、散歩をしたり体を動かす取り組みと、水分を多めに取っていただく取り組みを併用して行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴提供をしている。時間帯は努力はしているが、希望の時間に必ずしも提供は出来ていない。一人ひとりの要望を把握しながらタイミングに合わせて入浴していただいている。	利用者のその日の状態やタイミングに合わせ、また、午前・午後・夕食前・ゆっくり入りたい等の個々の希望に副って、入浴の支援が行われている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望や、その日の状態に応じて休んで頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を預かる場合は必ず処方箋を頂き、カルテに保管して情報共有している。薬が変更された場合は介護看護記録に残し、変化の状態観察をしている。		

外部評価結果(ケアセンターふれあいの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中に一人ひとりの役割があり、生活の張りになっている。又、希望に応じて隣接の畑での作業や、併設施設のプログラムに参加していただき楽しんでいただけるよう努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や理美容院、隣接の畑、花畑の散歩コースに出かけ、外の空気や四季を感じていただいている。 四季折々の外出計画や、地域・家族と一緒にに行くことの出来る外出を計画している。	ホーム周辺の四季折々の自然を楽しむ散歩や畑作りの他、車での外出を通して、ショッピング・食材の買出し・花見や紅葉狩り等の支援を行っている。また地域や町の行事へも積極的に参加し、地域の方々との楽しみを共有されている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自身での管理は難しいため施設で管理し、買い物の際や、自動販売機や公衆電話などで使っていただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は公衆電話・施設電話にて、希望に応じて使用している。 本人から季節の便りを家族に宛てて出しており、手紙の差出、受け取りは自由に行っている。 FAXを使用してのやり取りも行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音・匂い・光に気を配り生活感が感じられるように配慮している。歳時記には気を配っており、共有スペースの飾りつけは四季を感じる物を飾っている。 季節感のある作品作りや模様替え等、利用者と共にしている。	明るい共用の場は、ウッドデッキから菜園や遠くの景色が見られ、室内は四季を感じていただくような飾りつけ等を工夫され、居心地の良さが窺えた。テレビ体操の時間には思い思いに身体を動かしていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子をおいて思い思いの場所で過ごして頂いている。ウッドデッキや畑など自由に出入りができる。		

外部評価結果(ケアセンターふれあいの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い馴染んだ家具や生活用品を持ち込んで頂いている。 筆筒やベットの位置も利用者・家族と相談して配置している。	居室の入り口には漢字の書が一字掛けられ、本人・ご家族と相談し好みの表札を工夫されている。又ご家族と一緒に、使い馴染んだ筆筒を置いたり、写真を飾ったり、それぞれの利用者らしさや居心地のよさに配慮されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差を無くし、隣接の畑や建物内部を自由に行き来できるようにしている。 利用者の状態に合わせて目印や、表札を工夫している。		